

持続可能な地域づくりと人づくりを推進する ESD活動支援センター

活動レポート2016

ESDはEducation for Sustainable Development の頭文字。

「持続可能な開発のための教育」と訳され、

全国各地の学校で、地域で、取り組まれています。



ESD活動支援センター

Education for Sustainable Development

はじめに

～ ESD 推進ネットワークの構築に向けた取り組み ～

日本の提案により開始された「国連ESDの10年」が2014年に終了したのち、世界の国々は、ESDの重要性に鑑み2015年からESDの第2ステージを開始することとし、2014年12月に「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム (GAP)」の世界的な推進に合意しました。日本は、ESDを推進する中核的な国として、世界のESDをリードしていくことが期待されています。

このため、文部科学省と環境省は、持続可能な社会の実現に向け、ESDに関わるマルチステークホルダーが、地域における取り組みを核としつつ、さまざまなレベルで分野横断的に協働・連携してESDを推進することを目的としてESD推進ネットワークを構築することとしました。ESD推進ネットワークは、日本国内のESDの質的向上、量的拡大を図ることにより、持続可能な開発のために求められる原則、価値観、行動が、教育や学び・人づくり・地域づくりのあらゆる場において主流化していくことを目指します。

ESD推進ネットワークは、ネットワークの地域におけるESD活動の支援窓口となる「地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）」、広域的なハブ機能を果たすため、都道府県の区域を越えた広域ブロックにおけるESD活動の支援や地域ESD拠点と協働・連携した活動等を行う「地方ESD活動支援センター（地方センター）」、ESD推進ネットワークの全国的なハブ機能を果たす「ESD活動支援センター（全国センター）」等により構成されます。

全国センターは、2016年4月、関係省庁により、官民協働のプラットフォームとして開設されました。2030年に向けて、全国センターは地方センター・地域ESD拠点と連携して、地域レベル、広域レベル、全国レベルといった重層的なネットワークを形成し、地域における情報共有と学びあい、連携・協働を進め、学校や地域、職場等におけるESDを広げる支援、深める支援に取り組んでいきます。そして、2030年に持続可能な開発目標（SDGs）が達成されている社会を目指し、ESD推進ネットワークを広げていきます。

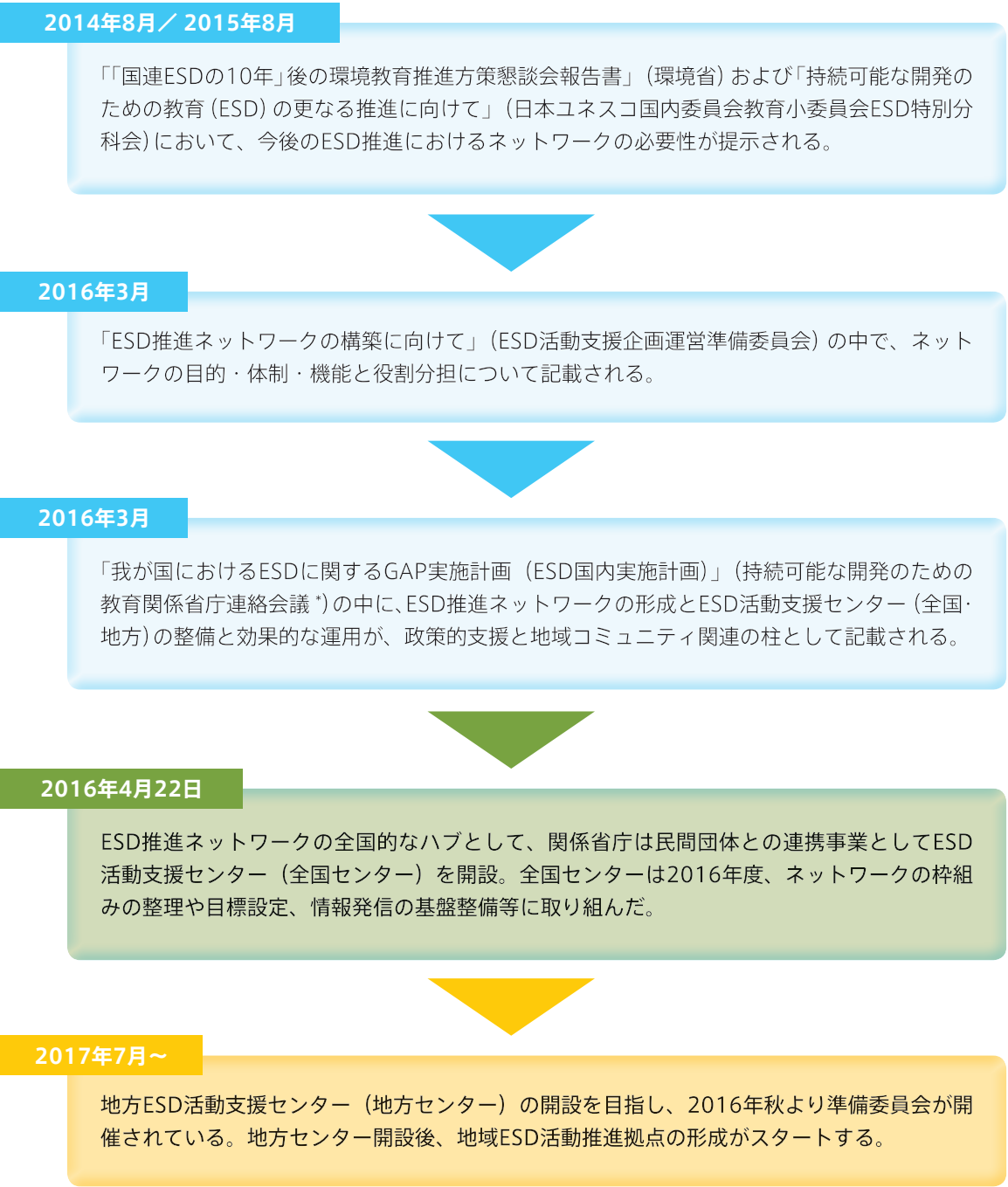
本活動レポートは、開設初年度となる2016年度の全国センターの活動記録を取りまとめたものです。この1年間で、情報発信のツールとしてウェブサイト을立ち上げ、全国フォーラムをはじめとするさまざまなイベントを企画・実施し、若者の力を活かしたユースレポーター活動などを行ってきました。今後、皆様のお力添えにより、一層の活動を展開してまいりたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力いただきますようお願いいたします。

ESD活動支援センター
センター長 阿部 治

目 次

はじめに.....	1	ESD推進ネットワーク全国フォーラム2016	14
ESD推進ネットワーク形成に向けた動き.....	2	第1部	15
ESD推進ネットワークとESD活動支援センター.....	3	第2部	17
2016年度の活動 総括	5	第3部	19
ウェブサイトで発信中.....	7	国際フォーラム：ESDにおける「変容」「統合」「刷新」...	21
# ESDワカモノ	9	屋外イベントでESDの普及	23
ESD推進ネットワークの具体化に向けた取り組み.....	11	資料編 後援・講師派遣等	26
相談窓口の開設	13	メディア掲載	29

ESD推進ネットワーク形成に向けた動き



* 持続可能な開発のための教育関係省庁連絡会議：持続可能な開発にかかわる省庁が連携してESDを進めるべく設置。2017年3月現在、12省庁が参画する。（文部科学省、環境省、内閣官房、内閣府、総務省、外務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、法務省、厚生労働省、消費者庁）

ESD推進ネットワークとESD活動支援センター

●ESD推進ネットワーク



●全国センターの機能と役割

4つの機能

1 情報の収集・発信

研修、教材、アワード、政策、助成金等の情報を、ウェブサイト、SNS等で提供しています。また、メールや電話等による相談にも応じます。

2 ESD支援体制の整備

地方センターと連携し、地域の実践者のニーズに沿った支援事業の検討を行っています。また、地域ESD拠点の形成・活動を支援します。

3 ネットワーク形成と学びあいの促進

ネットワークを育み、互いに学びあう場として「全国フォーラム」を開催します。

4 人材の育成

実践者やコーディネーター、指導者の育成と、活躍の場づくりに取り組みます。また、ユースのキャパシティ・ビルディングを支援します。

3つの役割

1 環境・開発・人権・平和・防災・消費などの多様なテーマに取り組む、さまざまな主体をつなぎます

2 ESD実践の支援ができる情報や組織・人材を地域をこえてつなぎます

3 国連機関や海外の先進地域の動きなど国際的な情報をつなぎます

2016年度の活動 総括

ネットワークを広げる第一ステップ ～基盤整備の一年

ESD活動支援センター（全国センター）は、ESD推進ネットワークの全国的なハブとして、2016年4月に開設されました。2016年度は、さまざまな分野のESD推進につながる情報の発信を支えるウェブサイトの構築、多様な官民のESD関係者へのネットワークの周知、そして2017年度の地方ESD活動支援センター（地方センター）の開設を視野に、ESD推進ネットワークの形成を業務に落とし込むための考え方の整理やルール作り（基盤整備）に力を注いだ一年でした。以下、全国センターの2016年度の取り組みを、ネットワークが果たす4つの機能に沿って振り返ります。

1. 情報の収集・発信

2019年度をめどとした成果目標

- ESD活動支援センター（全国・地方）が収集、整理、蓄積、共有する情報がESDを深めるために（質的向上）、また広めるために（量的拡大）、有用なものになっている。

2016年度の活動

情報収集と発信の基盤整備として、全国センターのリーフレットを作成・周知するとともに、最新のESD関係のお知らせやESDに関する公式ドキュメント等を掲載する全国センターの公式ウェブサイトを開設しました。そして、FacebookとTwitterを活用し、情報発信力の向上に努めました。

また、ユース（若者）によるコンテンツ「#（ハッシュタグ）ESDワカモノ」を立ち上げ、社会人ユースESDレポーター9名による情報発信を行いました。国際的な情報発信としては、2017年1月に、ユネスコ／日本ESD賞受賞者の実践に学ぶ「国際フォーラム」を開催しました。

そして相談窓口では、講師の紹介や事業の企画等を含む各種問い合わせや相談に対応しています。

●今後に向けて

ウェブサイトの一層の充実を図るとともに、メルマガを含むさまざまな手法を活用して、情報の周知普及に努めます。また、地方の情報との相乗効果がでるような展開を心がけます。そして、関係団体との連携強化がより明確に示せるような方策を探っていきます。

ユースによる情報発信については、その充実と強化方策を検討します。

2. ESD支援体制の整備

2019年度をめどとした成果目標

- ESD活動支援企画運営委員会（企画運営委員会）が、総合的なESD活動支援方策の検討やその実現に向けた全国センターへの指導・助言を行うための体制が整備されている。
- ESDを推進する多様な主体が参画する官民協働プラットフォームとしてのESD活動支援センター（全国・地方）の整備が進み、ESD活動に対する支援体制が機能している。
- 地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）の創出、形成、強化が進んでいる。

2016年度の活動

ESD活動の支援機能を支える「ESD推進ネットワークの基盤整備」として、「ESD推進ネットワークの構築に向けて」の解説文書を作成するとともに、ESD推進ネットワークの目標、成果目標、活動例、地域ESD拠点の位置づけ、役割、要件、登録手続き等について検討しました。検討に当たっては、全国センターの企画運営委員会の開催（3回）、地方センター設置準備のための意見交換会の開催（3回）を行うとともに、ESD推進ネットワーク形成に係る可視化ツールの開発に着手しました。

●今後に向けて

2017年度には、全国8ブロックで地方センターが開設されます。来年度の全国センターの最大の課題は、地域におけるESD活動の推進に向けた、地方センターとの緊密な連携・協力体制の構築です。また、地方におけるさまざまな分野の人たちが協力しやすくなるよう、全国レベルの各種団体との連携強化に努めます。

3. ネットワークの形成と学び合いの促進

2019年度をめどとした成果目標

- 多様な分野でESDの認知度が向上し、また理解が進み、多様なステークホルダーの間で経験の共有、ESD推進の協働・連携の関係性が形成・促進されるような学び合いの場が持たれている。
- 地域のさまざまな課題への取り組みや政策にESDの視点と手法が取り入れられていると同時に、多様な学びの場とそれを支える政策にESDの視点と手法が組み込まれ学びの質を高めている。

2016年度の活動

11月には、ネットワーク形成の状況を共有するとともに、ネットワークが成長するための場として、「ESD推進ネットワー

ク全国フォーラム2016」（全国フォーラム）を開催しました。

また、これまでESDに取り組んできた全国レベルの組織・機関・ネットワーク等に、今後ご協力いただける関係を築くべく組織を訪問するとともに、セミナーやイベント等への説明者派遣、資料配布、後援、広報協力、情報誌への寄稿等を行い、連携にむけた第一歩をスタートしました。

●今後に向けて

2017年度には、引き続き全国フォーラムを開催し、全国のESD関係者が集まって情報や経験の交流をする場を提供するとともに、地方センターと連携し、地方レベルにおける交流の場づくりに努めます。そして、引き続き、多様な分野・セクターの主体に働きかけ、ESD推進ネットワークの周知に努めるとともに、具体的な連携構築に向けた検討を行います。

4. 人材の育成

2019年度をめどとした成果目標

- 既存の研修等を活用し、多様な場でESD研修が実施されている。
- 多様な分野・セクターにESDを推進する多世代の人材が育成され、活動の場を広げている。

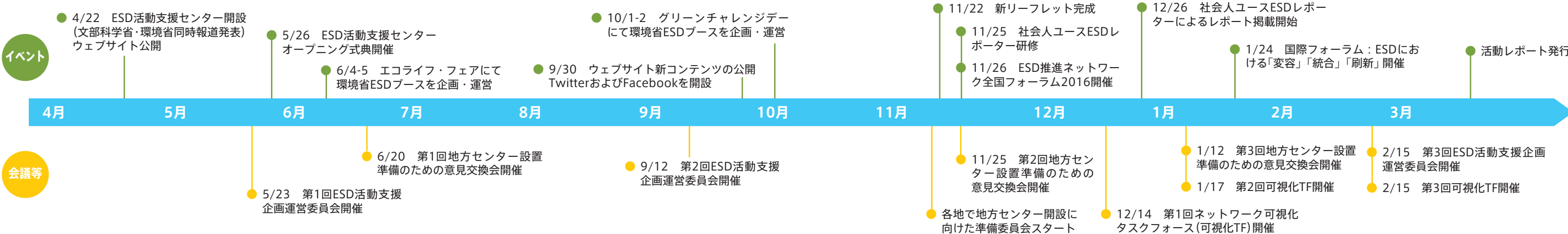
2016年度の活動

全国センター発足の一年目である2016年度は、地方センターの設立に向けた基盤整備を進めました。また、地方におけるESDをテーマとした研修などに対して、プログラム企画の相談、講師候補者の紹介、講師派遣などの支援を行いました。

●今後に向けて

2017年度には、地方センターと連携し、教育委員会や学校、社会教育施設などにおける各種研修にESD研修を取り込むよう働きかけを始めたいと考えています。

ESD活動支援センター 2016年度 活動カレンダー



ウェブサイトで 発信中

ESD活動支援センターウェブサイト

●コンセプト

「仲間を増やすウェブサイト、仲間の力をつけるウェブサイト」を目指し、他のウェブサイトへの有効なポータル(入り口)として機能するコンテンツづくりに努めています。

また、SNS等と連動して情報を一元的に発信し、ESDの魅力を伝える・ESD関係者を増やすツールにしたいと考えています。

●目指している“役割”

- 1. ESDを実践する方に役立つ情報を発信することによる、ESDの活性化
- 2. 「ESD」のフレーズを用いている情報の一元化、整理、蓄積と発信
- 3. 「ESD」のフレーズを用いていない「ESD」に関する情報の洗い出しと統合

初年度は、ウェブサイトの「ベースづくり」と「運用」に注力し、各コンテンツの情報源は文部科学省、環境省公式ウェブ



サイトを中心に、環境省地方環境パートナーシップオフィス(EPO)等の関係団体メールマガジンや、ESD関係の皆さまから寄せられる情報を活用させていただきました。

今後は、ウェブサイトを通じた、「ESD」のフレーズを用いて活動を行う団体との関係強化、また、「ESD」のフレーズを用いていない「ESD」に関係する団体との関係づくりを目指します。

ESD活動支援センター公式Facebookページ&Twitter



Facebookページ

ウェブサイトの更新情報のほかに、センター主催イベントの告知や開催報告などを掲載しています。

▼いいね！数：227 ▼フォロワー数：230
(2017年3月1日現在)



お気軽にいいね！／フォローしてください！



Twitter

主にウェブサイトの更新情報をツイートしています。

▼フォロワー数：33
(2016年9月15日～2017年3月1日現在)



お気軽にフォローしてください！

●リーチ数上位記事●

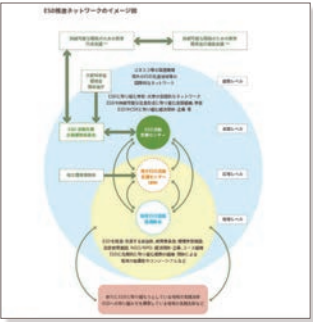
【ESD推進ネットワーク全国フォーラム2016・御礼とご報告】

2016年11月26日(土)に開催した「ESD推進ネットワーク全国フォーラム2016」開催の御礼と簡単なお報告を、当日の写真とともに掲載しました。(右図)

▼リーチ数：3873
(2017年3月1日現在)



●ウェブサイト・コンテンツのご紹介



私たちにについて

「ESD推進ネットワークの目的」やネットワークのイメージ図、センター設立の背景など、「私たちにについて」の情報を掲載しています。当センターの主催事業についても一覧形式でまとめています。また、ESD活動支援センターロゴマークのコンセプト、リーフレットのダウンロード用データもこちらに掲載しています。

アワード・表彰

ESD公式の賞、ESD関係の皆さまに知っていただきたいESD関連の賞をご紹介します。

研修・交流

ESDに関連する研修や交流機会などの情報を、開催日の新しい順に掲載しています。

ESDとは

ESDに関する組織・団体の「ESD」についての説明ページをリンク形式でご紹介しています。「ESD」についての説明は各々の組織・団体ごとに対象者に合わせた独自の工夫がなされています。さまざまな「ESDとは」をご覧ください。

公式ドキュメント

ESDに関する公式ドキュメント(宣言、国内実施計画、国連／ユネスコ文書、条例等)をまとめ、PDFデータを掲載しています。

#ESDワカモノ

全国から選出された若者世代のレポーターが、ESDに関するさまざまな活動にじかに触れ、生の声を聴き、「ワカモノ目線」でESDを切り取りレポートするコンテンツです。(p9-10)

お問い合わせ

ESD活動支援センターへのお問い合わせ、ご相談窓口(専用フォーム)です。センターへのご来訪を希望される場合のご連絡も、こちらをご利用ください。

ピックアップコンテンツ

「アワード・表彰」 ユネスコ／日本ESD賞

実施主体：ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)、日本ユネスコ国内委員会

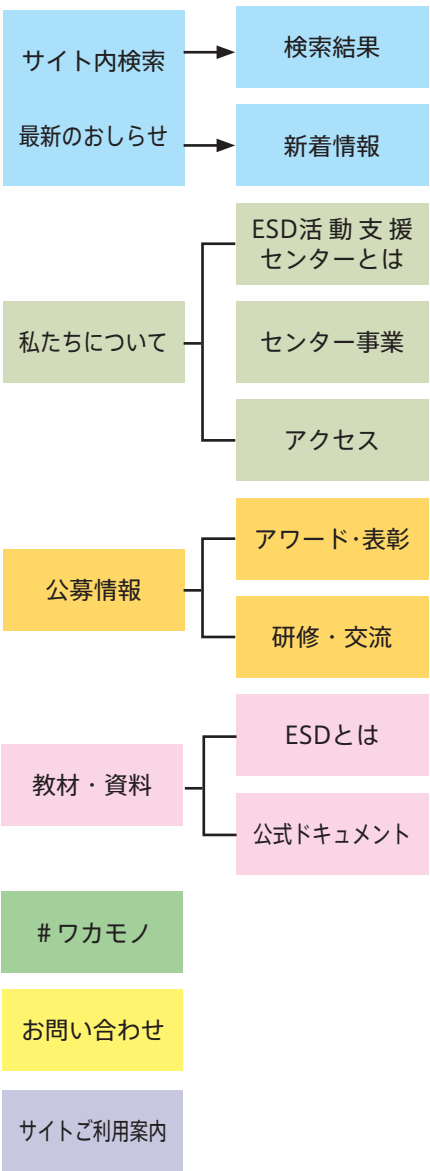
ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)の枠組みの中で、ESD活動に取り組んでいる団体、学校または個人について、ESDに関する特筆すべきプロジェクトに着目し、表彰します。

この賞は、日本の財政支援により設立されたもので、ESDに関するユネスコ世界会議(2014年11月10～12日 愛知県名古屋)で創設が正式に発表され、世界中のESDの実践者にとってより良い取り組みに挑戦する動機づけと、優れた取り組みを世界中に広めることを目的としています。

この賞には団体、学校または個人による応募が可能で、ユネスコが加盟国及び連携NGOからの推薦案件の中から受賞案件を選定します。日本では、日本ユネスコ国内委員会が行う国内公募(2017年は1～3月)への応募案件の中からユネスコへの推薦案件が選考されます。

第1回(2015年)はドイツ、グアテマラ・エルサルバドル、インドネシアの団体が、第2回(2016年)はカメルーン、英国の団体と共に、「岡山ESDプロジェクト」(実施主体：岡山ESD推進協議会)が受賞しました。

●ウェブサイトの構成 2017年3月現在



●成果

- ・情報を正確に、タイムリーにお届けできるよう心がけ、一定の評価を得られたと考える。
- ・SNSの開設により、ウェブサイト情報の拡散をはじめることができた。

●今後に向けて

- ・地方ESD活動支援センターの開設に向けて、ESD活動支援センター(全国・地方)共通の情報基盤を築くとともに、地方の情報との相乗効果がでるような展開を心がける。

ハッシュタグ #ESDワカモノ

～ユースによるESD情報の発信

#ESDワカモノは、ユース（若者）世代による、ESDに関するレポートを掲載するコンテンツです。

学校で、職場で、地域で、持続可能な社会をつくる学びはさまざまに展開されています。ここでは、全国から選出されたレポーターが、ESDに関するさまざまな活動にじかに触れ、生の声を聴き、ワカモノ目線でESDを切り取り、レポートしていきます。

●9名の社会人ユースがESDを発信

「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」の5つの優先行動分野には「ユース（ESDへの若者の参加の支援）」が位置づけられ、ESDを通じて持続可能な開発のための変革を進める役割を担うユースに大きな期待が寄せられています。ESD活動支援センターは、ユースと共にESDを推進していく仕組みとして「若者世代によるESD情報発信プロジェクト」を開始しました。

全国から応募したユース（今回は18歳～35歳までの社会人）の中から、11月上旬、9名の社会人ユースESDレポーターが選出されました。

●社会人ユースESDレポーターの活動概要

レポーターは11月25日（金）に東京に集合し、ESDとコミュニケーションに関する研修に参加しました。そして翌日の「ESD推進ネットワーク全国フォーラム2016」に参加、年末までにフォーラムの参加レポートを作成しました。第二弾は身近な地域にあるESDを、ワカモノ目線でレポートしています。ウェブサイトで、ぜひご覧ください。

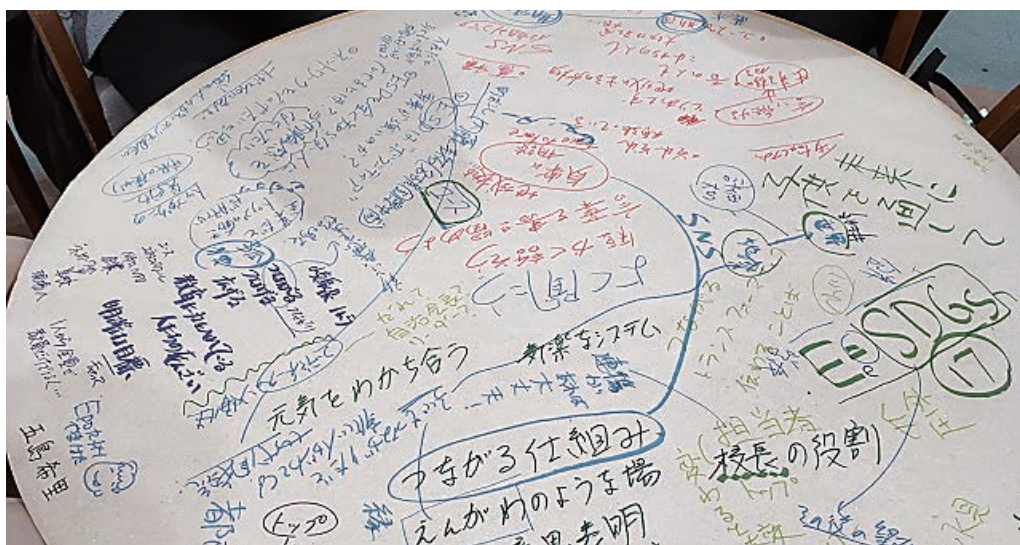


●成果

- 全国フォーラムのレポートは、教員や企業人、NPOや中間支援組織など、多様な立場・視点からの内容となった。
- 地域のESDについても、農業、3R、フェアトレード、まちづくり、平和学習、こども図書館など、さまざまな分野の魅力的なESDを紹介することができた。
- 北海道のユースの所属団体が開催するエシカル消費のイベントに、関東のユースがゲストで呼ばれるなどのつながりが生まれた。

●今後に向けて

- 2016年度のメンバーには来年度も引き続きレポーター活動を継続し、地域のESD発信を通して、ESDの知見を深め、情報発信力を高め、ESDのネットワークを豊かにしていくパートナーとして活躍していただきたいと考えている。



ユースにより紹介された地域のESD実践

北海道

齊藤 美悠（一般財団法人 北海道国際交流センター経営管理室 プログラムコーディネーター）

レポート先 山田農場チーズ工房

●農業の視点からみる持続可能な暮らしと学びの場づくり

～食べ物やエネルギーを自給自足し、酪農・チーズ作り・生活・自然、すべてがにつながる暮らしの中にある山田農場のESD～



関東

腰塚 安菜（オーガニックライフスタイリスト）

レポート先 かんきょう文化祭

●ごみは、無関心がかたちになったもの。イベントで、関心をつなぐ

ライフスタイルの中で体感する「ごみ」「かんきょう」を、地元の中高生へ。創作披露の機会をクラウドファンディングで実現



中部

内藤 圭祐（名古屋国際中学校・高等学校 教諭）

レポート先 Aoyagi Coffee Factory 青柳信弥氏

●自分のまち、仕事、そしてESD

朝起きがけに飲む1杯のコーヒーから、サステナブルな世の中を考えてみよう。



中部

野村 佳世（Go4BioDiv ESDコーディネーター）

レポート先 水門川いきいきプロジェクト

●人間と生物が仲良く生きる持続可能な社会を目指して

～岐阜県大垣市で、人間と生物がお互いに共存できる社会の実現に向けて、出前講座を行う「水門川いきいきプロジェクト」の近藤さんにお話を伺った～



近畿

大橋 寛実（公益社団法人 大阪自然環境保全協会 会員）

レポート先 特定非営利活動法人 とよなかESDネットワーク

●ESDは幸せになるための土台

～どんな社会になっても生きていける力は非認知能力にあり～



中国

井上 紘貴（岡山市京山地区ESD推進協議会）

レポート先 特定非営利活動法人 これからの学びネットワーク

●“広島＝平和”にESDを取り入れた学び

“平和”について考え、継承していくための参加型ワークショップと学校教育への活用



中国

江國 友哉（岡山市立桑田中学校）

レポート先 岡山市立大元公民館

●つながれ！地域と中学生 ～公民館の取り組みから～

いつからだろうか。人と地域のつながりが希薄化してきたのは。いま、失われたつながりを取り戻し、新たなキズナを創生する。



四国

尾崎 昭仁（高知市市民活動サポートセンター プロジェクトマネージャー）

レポート先 認定NPO法人高知こどもの図書館

●子どもたちに本を手渡す活動を行う「高知こどもの図書館」

17年に亘り民間の図書館として子どもと本の出会いを支えてきた高知こどもの図書館の取り組みについて古川館長に話を伺った



九州

與儀 滝太（沖縄県立糸満青少年の家 専門職員）

レポート先 琉球ガラス職人 仲本庄吾氏

●暮らしの中で地域の担い手が育つ

生業と地域活動から築かれたネットワーク。地域での暮らしから、見えてくる「持続可能」な「教育」の在り方とは。



ESD推進ネットワークの 具体化に向けた取り組み

基盤となる文書等の作成

2016年度は、ESD推進ネットワーク全体の基本的方向性を描くとともに、ネットワークの形成を業務に落とし込むための考え方の整理やルール作り(基盤整備)に力を注ぎました。

具体的には、ESD活動支援企画運営委員会(企画運営委員会)(3回)、地方センター設置準備のための意見交換会(3回)などの議論を通じて、以下について整理し、文書にまとめました。

●「ESD推進ネットワーク構築に向けて」解説資料

ESD推進ネットワークを構成する各主体が「構築に向けて」に使用されている用語や地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)のイメージ、ネットワーク構成組織の関係性などについて認識を共有することを目的として作成。

●ESD推進ネットワークの目標等

ESD推進ネットワークを構成する各主体がネットワークの目標等について共通の認識を持つことを目的として作成。2019年度(GAPの最終年)をめどとした当面の成果目標、その評価指標、データおよび活動例を示した。

※ 2019年をめどとした8つの成果目標は、p5～p6に記載

●地域ESD拠点の登録について(案)

地域ESD拠点の位置づけ、役割、要件、登録手続き等について説明する文書。付属文書「地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)登録申込書」と共に作成。

◆ESD活動推進企画運営委員会委員

上野 浩文	一般社団法人コミュニケーションデザイン機構(近畿環境パートナーシップオフィス請負団体) 代表理事／近畿環境パートナーシップオフィス(きんき環境館)事業統括
及川 幸彦	東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター主幹研究員／日本ユネスコ国内委員会委員
川田 力	岡山大学(ASPUnivNet運営委員会前担当大学)大学院教育学研究科教授
久保田 学	公益財団法人北海道環境財団(北海道環境パートナーシップオフィス(EPO北海道)請負団体)事務局次長
佐桑 徹	一般財団法人経済広報センター 常務理事兼国内広報部長
重 政子	特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)代表理事
新海 洋子	特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ(中部環境パートナーシップオフィス請負団体)／中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)チーフプロデューサー
鈴木 佑司	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟副理事長
関 正雄	損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR室シニア・アドバイザー／明治大学経営学部特任准教授
辰野 まどか	一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)専務理事／事務局長
常川 真由美	特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク(四国環境パートナーシップオフィス請負団体)／四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)所長
仁科 俊彦	岡山市市民協働局ESD推進課課長
堀江 振一郎	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)理事・事務局長
増田 直広	公益財団法人キープ協会環境教育事業部長／山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター館長
森下 研	一般財団法人持続性推進機構専務理事／エコアクション21中央事務局長／環境人材育成コンソーシアム事務局

(敬称略、50音順)

◆地方センター設置準備のための意見交換会メンバー

環境省地方環境パートナーシップオフィス(EPO)および地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)の事業統括

ESD推進関係者への周知・協力依頼

これまでESDに取り組んできた全国レベルのネットワーク組織・団体等に、ESD活動支援センターとESD推進ネットワークを紹介し、今後ご協力いただける関係を築くべく、組織への訪問、イベントへの参加(説明や資料配布、後援等)、ニュースレター等での紹介依頼、寄稿などを行いました。p26～p29

また、ESD推進ネットワークの概要については、持続可能な開発のための教育関係省庁連絡会議、持続可能な開発のための教育円卓会議においては文部科学省・環境省から、日本ユネスコ国内委員会教育小委員会・普及活動合同小委員会では全国センターから説明を行い、周知に努めました。

なお、ESD推進ネットワーク形成への協力依頼に関しては、右記の2本の事務連絡文書が発出されています。

ネットワークの可視化への取り組み

ESD活動支援センターでは、2016年度から2019年度までのESD推進ネットワークの形成状況および取り組みを「可視化」することに取り組みます。

2016年度においては、可視化するためのツールに関する概念整理を行ったうえで、「全国レベルのネットワーク可視化ツール」の作成と試行に取り組みました。そしてESD関連組織が可視化ツールを活用するための説明書として、「可視化ツール活用ガイド」を作成しました。検討および作成に当たっては、ネットワーク可視化タスクフォース(可視化TF)を3回開催しました。

●可視化ツール活用ガイド

ESD推進ネットワークの「つながりの可視化」、「取り組みの可視化」、「支援方法の可視化」に関するデータ整理方法と

●成果

- 企画運営委員会は高い出席率を得て、多くの助言をいただくことができ、ESD推進ネットワークの基本的方向性を議論し、基盤となる資料を作成することができた。
- ESD推進関係組織への訪問は、非常に限定的ではあったが、訪問先からはESD推進ネットワークへの理解と周知に向けた協力を、さまざまな形でいただくことができた。
- 環境省地方環境事務所および地方環境パートナーシップオフィス(EPO)による地方ESD活動支援センター(地方センター)の開設準備の状況、課題等を把握し、必要な事項について検討・調整することができた。
- 理論、実践の双方の視点から可視化ツールを検討し、全国レベルのネットワークの「可視化ツール活用ガイド」を作成することができた。

事務連絡文書「ESD推進ネットワークの構築に向けた協力について(依頼)」

発信元： 文部科学省国際統括官付、環境省総合環境政策局環境教育推進室、ESD 活動支援センター

宛 先： ESD推進関係者各位

日 付： 平成28年9月27日

事務連絡文書「ESD推進ネットワークの構築に向けた協力について(依頼)」

発信元： 文部科学省国際統括官付

宛 先： 各都道府県教育委員会指導事務主管課、各指定都市教育委員会指導事務主管課、各都道府県私立学校事務主管課、附属小・中学校を置く各国立大学法人附属学校事務担当課、独立行政法人国立青少年教育振興機構

日 付： 平成28年11月8日付

可視化ツールのあり方を解説するために作成。2016年度は全国センターと一部のESD関連組織間の関係性を可視化すべく試行した。

◆ネットワーク可視化タスクフォースメンバー

〈検討委員〉

及川 幸彦(副座長) 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター主幹研究員／日本ユネスコ国内委員会委員

佐藤 真久(座長) 東京都市大学環境学部教授

〈ESD活動支援センター〉

柴尾 智子 ESD活動支援センター次長

鈴木 克徳 ESD活動支援センター副センター長、金沢大学教授

(敬称略、各カテゴリー内50音順)

●課題と今後に向けて

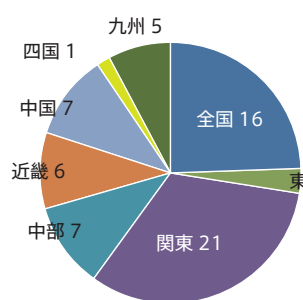
- 全国レベルのネットワーク組織等への協力依頼のための訪問、イベントへの参加、講演名義の使用、ニュースレター等への寄稿などは、これまでESDにつながってこなかった分野に広げていきたい。また、協力・連携のより進んだ形を模索していく必要がある。
- 企画運営委員会は、委員のESD推進に関わる意欲を具体化し共有する機会にするために、運営において工夫が必要。
- 意見交換会については、来年度、地方センターの開設を踏まえ、「ESD活動支援センター(全国・地方)連絡会」に移行し、継続する。連絡会の役割を明確化し、効果的な連携ができるよう、運用を図っていきたい。
- 可視化ツールは、広域ブロックでの活用にどう応用するかが課題となる。

相談窓口の開設

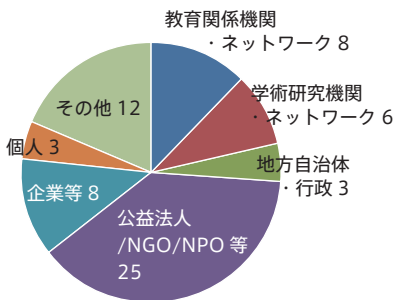
ESD活動支援センターでは、2017年2月末までに、65件のお問い合わせとご相談を受けました。

その内訳は、相談者の属性によると公益法人/NGO/NPOが多く、企業、教育関係機関が続きます。その他は多様な主体が参画するESD協議会や、官民協働の地方環境パートナーシップオフィ（EPO）などです。

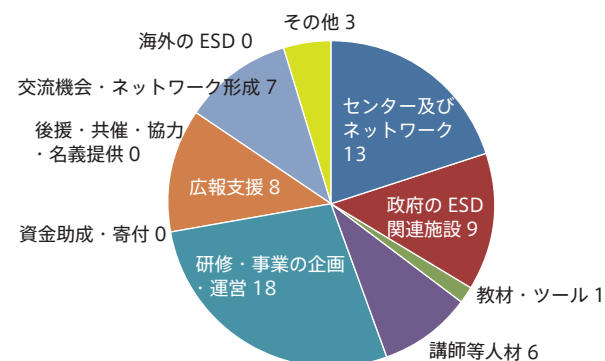
内容については、講座や事業の企画内容に関するものが多く、次いでセンターやネットワークに関するお問い合わせ、そして政府のESD関連施策でした。朝日新聞社からの相談は「ESD活動支援センター賞」の創設に、岡山市からの相談は「国際フォーラム」の開催につながりました。



相談者の活動対象地域



相談者の属性



相談の内容

●成果

- 相談対応においては、講師や交流組織を紹介するにとどまらず、全国センターとして事業に参画した案件、全国センターの事業として発展させた案件などを生み出すことができた。

●今後に向けて

- 2017年7月以降は、全国8か所の地方ESD活動支援センター（地方センター）や地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）と連携して、よりきめ細かで地域の状況に即した対応ができるようになることを目指す。

ESD 推進ネットワーク 全国フォーラム 2016

～ ESD 第2ステージ：未来をつくる学びの俯瞰図～

ESD推進ネットワーク全国フォーラム（以下「全国フォーラム」）は、原則的に毎年1回、ESDの多様な主体が連携・協働していくために、ネットワークの主たるステークホルダーが一堂に集い、ネットワーク形成の状況を共有するとともに、ネットワークが成長するための機会として開催していきます。

初回となる今年度の全国フォーラムは、多分野の多様な組織・団体の代表および個人が、持続可能な社会の構築に向かう全体像を俯瞰するなかで自らの立ち位置を確認し、協働の基盤をつくる機会として企画。ESDが目指す社会を共有するために、持続可能な開発目標（SDGs）を縦軸に、地域をベースにした多様な主体の連携を横軸に組み立てました。

当日は主催者、関係者を含め、全国各地から185名が参加しました。ここでは登壇者の皆さんのメッセージを事務局で編集してご紹介します。

開催概要

■主催	文部科学省、環境省、ESD活動支援センター
■日時	平成28年11月26日(土) 10:00-17:30
■会場	国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議室



■プログラム概要

10:00～	開会挨拶 文部科学省、環境省
10:10～	第1部 基調パネルディスカッション：ESDが目指す世界 1.基調講演「我々の世界を変革する：持続可能な開発目標(SDGs)を実現するために」 2.パネルディスカッション：SDGsとESD活動
13:30～	第2部 地域のESD先進事例に学ぶ 1.実践発表 共生のまちをめざして —国際ボランティア年から「いたばし未来白書」・みんなのたすけあいセンターいたばし設立まで— 2.全国の地域からのコメント
15:15～	第3部 持続可能な未来のための協働を俯瞰する： ESD推進ネットワークとESD活動支援センター（全国・地方）の役割 1.紹介 ESD推進ネットワークとESD活動支援センター（全国・地方） 2.コメント ESD推進ネットワークの可能性 3.全員参加によるグループディスカッション 4.まとめ
17:25～	閉会挨拶 ESD活動支援センター

総司会 下村委津子さん

ご挨拶 より

●森本浩一 文部科学省国際統括官

ESDは持続可能な社会の構築に向けて地球環境の保護はもとより、世界的に保護主義的な風潮が台頭してきている中で、国や文化の違いを超えた相互理解を促し平和の構築に資するものだと考えています。またESDは、地域の持続可能性の実現にも貢献するなど取り組みの成果が社会に還元されていくことが求められています。SDGsの達成への貢献も見据えて、国内におけるESDの推進にも一層努力をしていきたいと考えています。

●奥主喜美 環境省総合環境政策局長

本日初めての開催となる全国フォーラム2016は、ESDを実践している方々が、持続可能な社会を作るための人づくり・地域づくりの実践を共有し、意見交換ができる機会です。さまざまな環境や立場でESDを実践する地域の事例やESDが目指す世界の動きなど、貴重な情報が得られると思いますので、今後の皆さまの活動につながることを期待しています。

👑 広報協力が賞の創設につながりました

2008年から行われている朝日新聞社の「地球教室プログラム」では、毎年20万部を超える部数のオリジナル環境教材・地球教室「基礎編」と「応用・研究編」を、希望する学校に配布しています。2016年版地球教室「応用・研究編」の巻末の先生向けのページにて「未来を変える力を育む 持続可能な開発のための教育(ESD)」として、ESD推進ネットワークおよびESD活動支援センター（全国・地方）をご紹介いただき、ESD活動支援センターでは、ウェブサイトでの「地球教室」の広報にご協力しました。

「地球教室」ではテキストを通して学んだこと、自分自身で行った活動などを「かんきょう新聞」にまとめていただきます。その新聞を学校ごとにご応募いただき、選考を経て特別協賛企業から賞が贈られます。

ところが、毎年各企業が設定しているカテゴリーにあてはまらないものにも多くの優れた作品があり、審査の対象からはずれてしまうことがご担当者の悩みでした。そのことが、「ESD活動支援センター賞」の創設につながりました。

1月26日の締め切りまでに、6,197作品が寄せられ、1,747点がESD活動支援センター賞の対象になりました。

活動支援センターでは、以下の観点を審査基準としました。

- 環境の視点だけでなく、経済の視点、社会の視点、文化の視点がなんらかの形で表現されている。
- 批判的な思考力の発揮が感じられる。

- 協働的な制作過程が見て取れる。
 - 知識だけでなく行動する姿勢が見て取れる。
- そして、優秀賞1点、佳作3点を選考させていただきました。



全国フォーラム
第1部

基調パネルディスカッション：

ESDが目指す世界

基調講演でSDGs（持続可能な開発目標）とその動きについて学び、パネルディスカッションではSDGsを意識することで、それぞれの立場で行われているESDにどのような変化が起こるのか、もしくはSDGsの達成にどうつながっていくのかについて、語っていただきました。



基調講演 より

●根本かおるさん

2015年の9月に国連でSDGsが採択されました。2030年まで世界をぐっと引っ張っていくマスタープラン、それがSDGsです。ESDを実践なさっている皆さんは、すでにSDGsを推進していらっしゃる、私はそう思っています。

今年5月、全庁、全関係者が参加し、安倍総理大臣を本部長とするSDGs推進本部が発足しました。年内に採択される予定の行動指針の原案にはESDに関してたくさん言及がありますので、ぜひご覧ください。

SDGsは、700万人の人々の声を受け付けて作られました。SDGsはある意味、私たちの権利と暮らしというものを360度から支えるものだと思います。合言葉は「誰も置き去りにしない」。脆弱な立場に置かれがちな人たちのことも目配りしながら底上げを図るということです。

教育を例にするとわかりやすいですが、17の目標はそれぞれ個別に存在しているのではなくて、一つレバレッジポイントを決めてグッと進捗させると他のゴールがズズズと進捗するのです。

SDGsを語るときによく「transformative、変革的な」という言葉を使います。transformationという言葉は、歴史的にいう

ファシリテーター：上條直美さん NPO法人開発教育協会(DEAR)代表理事

1. **基調講演**「我々の世界を変革する：持続可能な開発目標(SDGs)を実現するために」
根本かおるさん 国連広報センター所長
2. **パネルディスカッション** SDGsとESD活動

〈国際機関〉 根本かおるさん
〈企業〉 関正雄さん 損害保険ジャパン日本興亜株式会社CSR室シニア・アドバイザー
〈学校〉 広木敬子さん 横浜市立永田台小学校主幹教諭
〈NGO/NPO、ユース〉 飯田貴也さん NPO法人新宿環境活動ネット・東京大学大学院在学
〈地域〉 友延栄一さん 岡山市市民協働局ESD推進課

と奴隷解放とか男女平等とか産業革命とか、それまでに持たれていた価値観をひっくり返すくらいの斬新な新しいものの考え方をさすことが多いのです。アクションを積み上げていくことと同時に、2030年にこういう社会になりたい、そう思った時はバックキャストिंगして今何をしなければいけないのかを考えていくような思考方法が求められていると思います。

SDGsは2030年、今の若者こそが社会の中核を担っている時代ですので、彼らの声は大切です。国連では17名の若者をYoung Leader for Sustainable Development Goalsに任命して国連と一緒にSDGsを推進するための活動に関わってもらおうとしています。毎年17名選ばれます。今、日本人の顔はありませんが、来年以降日本人の顔がどんどん出てくることを私は祈っています。



パネルディスカッション より

●関正雄さん

SDGsは「ちょうどいい共通言語ができた」と思いました。企業は、SDGsの17のゴールのどこに貢献して同時に企業価値をあげるか、という観点で戦略を立案し始めています。根本的な変化を起こすためには、さまざまなステークホルダーとベクトルを合わせてマルチステークホルダーで取り組むことがものすごく大事。そこで共通言語となるのがSDGsです。そして、こうした企業の戦略人材を育てること、つまりESDがきわめて重要だと思っています。

グローバル経済の在り方に関しては、G20 でinclusive growthとかinclusive capitalism、つまり資本主義をもっと包摂的なものに変えていこうという議論、またcivilized capitalism、「市民化された資本主義」という新たなコンセプトなどが語られ始めています。

●広木敬子さん

本校では子どもよりもまず教員が関心を持つことから始めました。そして主に5年生が昨年度の学びを生かしてSDGsから自分の学習課題を考える活動に取り組み始めています。ロゴデザインが子どもたちにも親しみやすいというところをうまく利用して、本校での学習活動の中の物差しのように使えるといいなと思っています。高学年になると結構、この中から何かを調べたいという気持ちも生まれるでしょう。

学校現場の変化、変容は無理なくゆっくり・・・がいい状態なのでしょう。いつも誰かがどこかで気にしている、という校風が作れてきています。教師が子どもたちの小さな変化をみつければ喜び合う。すごくシンプルなことです。

●飯田貴也さん

私は所属するNPOで、主に新宿区内の小・中学校を対象に、環境学習やESDに関する出前授業や課外ワークショップをコーディネートしています。これまでは「うちは環境と関係ないので…」という反応もあったのですが、ESDやSDGsの枠組みを示すと、環境と食、環境と科学など、いろんな隣接する分野の人々も巻き込んで活動できる。ESDやSDGsといったキーワードは、人を集めるという意味で、うまく使うと「巻き込み力」があると思います。

ユースのネットワークも同じ。私は第1回「ESD日本ユース・コンファレンス」に参加しましたが、その当時のつながりは今

や、企業やNPO、学校や行政など、マルチステークホルダーのネットワークとなっています。

●友延栄一さん

ESDを分けてはいけないのですが、岡山ではEの部分に対しての基盤を作ってきたところがあると思います。じゃあSDは何なのか、個別には皆さまいろいろとされていますが、共通の目標というのが今まであまりなかった。そう考えると、SDGsはプロジェクトの中で未来の姿を共有しようとしたとき、共通言語として使えるなと思っています。

総合計画や市長の公約を、SDGsを物差しに確認するなど、地域のワークショップの中でもSDGsが入ってくることでの変容、しかもそれは地域のことはあるけれど、世界のことにつながっているバックキャストでできるようなものとして使っていけばいいのかなと思います。

●根本かおるさん

わくわくしながら話を伺っていました。今日の議論はしっかり国連本部に伝えたいなと思います。いろんな分野で起きていることを、つなげて考える思考、つなげる力がひとつ大切なことなのかもしれません。

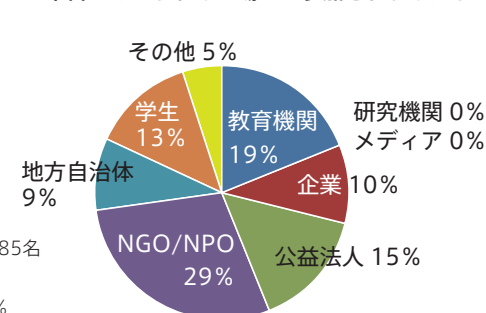
●上條直美さん

ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）の序論では、持続可能な社会に向けた教育の再方向づけという言葉が出てきます。transformativeな学びへの転換や教育システムそのものを再方向づけすることは、私たちに課せられた大きな課題ではないかというふうに思います。

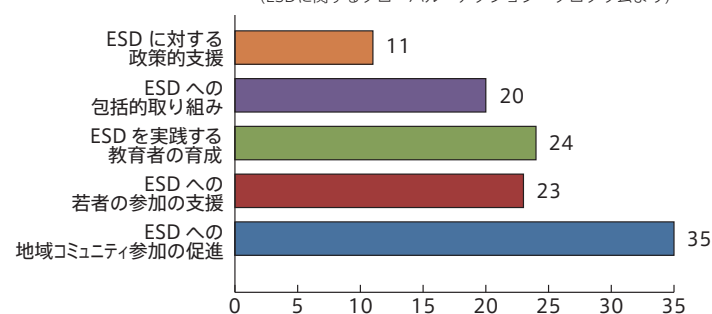


アンケートの結果

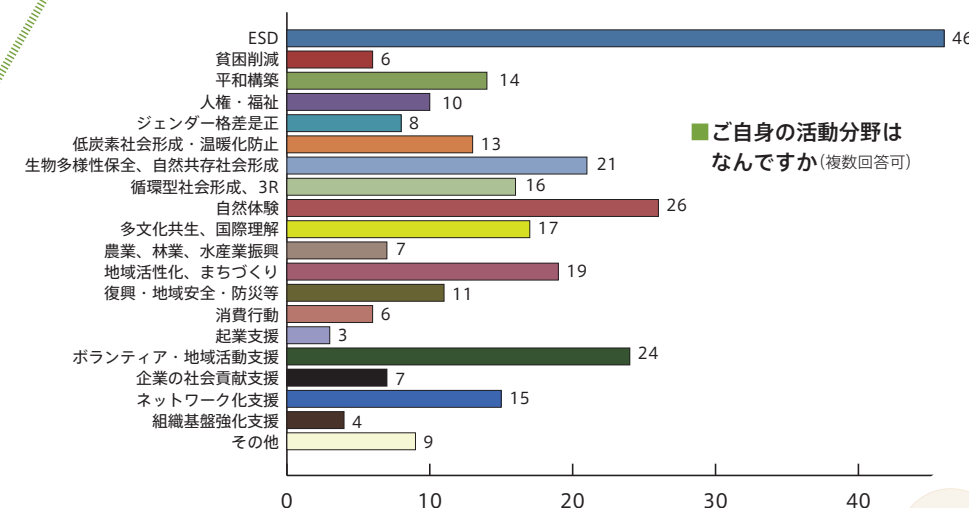
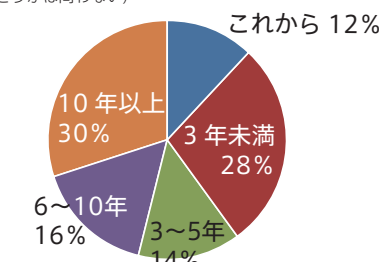
■本日はどのような立場でご参加されましたか



■ご自身の活動の重点はどこにありますか(複数回答可) (ESDに関するグローバル・アクション・プログラムより)



■ESDへの取り組みに何年くらい関わってこられましたか(ESDという用語を使っているかどうかは問わない)



全国フォーラム
第2部

地域のESD先進事例に学ぶ

国連からのメッセージを時々に取り入れながら、地域にどっぷり根差して、足元にある課題解決に多様な主体の協働で取り組んできた板橋の事例をお伺いし、地域におけるESDについて考えました。



実践発表および
ファシリテーターとの対談 より

●加藤勉さん
20歳の時に、憲法の生存権、基本的人権にピンときて、同世代の青年たちとボランティアのネットワークを作りました。先ほど若者がSDGsを歌って踊るラップを紹介されましたが、あれを私がするなら演歌ですね。地域の中でやるということがひとつのポイントかなと思います。地域ではなかなか高尚な話はウケないです。コウショウ恐怖症になる。どういうふうに言葉を発して言ったらいいのか、大きなテーマだと思えます。
私の体験で言いますと、国連のメッセージは私の思いにとっても近い。地域と国連は、深くつながるのではないかと思います。
1981年、国際障害者年は「社会への完全参加と平等」という強烈なメッセージを出しました。これですっかり市民が連帯して障害者の権利と一緒に作ってきた。また、2001年の国際ボランティア年は、ボランティアの概念を大きく変えてくれました。そして国連ESDの10年です。ESDで私たちが一番獲得したのは、社会を作る主体の自覚です。課題の現状を把握し整理し一歩踏み出す。この方程式をESDの中から学び取ったのです。これは大きな収穫でした。2016年から始まった

ファシリテーター：二ノ宮リムさちさん 東海大学現代教養センター准教授

1. **実践発表** 共生のまちをめざして ―国際ボランティア年から「いたばし未来白書」・みんなのたすけあいセンターいたばし設立まで―
加藤勉さん NPO法人ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし副理事長

2. **全国の地域からのコメント**

松田剛史さん	ソーシャルベンチャーあんじょう家本舗
海藤節生さん	ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムESDコーディネーター
北川陵太郎さん	愛知県環境部環境政策課企画・広報グループ主任
林美帆さん	公益財団法人公害地域再生センター（愛称：おおぞら財団）研究員
井上修さん	かがわ環境カウンセラー協議会会長
石丸哲史さん	福岡教育大学教授

SDGsの「誰も置き去りにしない」、これも板橋の地域の課題ですから宝物みたいなものです。
1982年、障害を持つ人たちと一緒に学校でボランティア講習会を始めました。「共に生きる」normalizationです。学校には当時、まったく具体的なものがなかったのです。板橋区には中学校が24校ありますが、そのほとんどで私たちのプログラムを実施しています。
地域の大人たちが中学生に大切なことを伝えることで、逆に大人自身が大切なものを自分のものにする。この実績で板橋区立大原社会教育会館から私たちに共催で講座作りを進めていただきたいと依頼がありました。いたばしでは「peace museum平和博物館をつくらう」という話が出ていますが、その布石が国際ボランティア年に始まったガンジー・プロジェクトという人権プロジェクトです。大原社会教育会館と共催した講座が117回を数えています。
私は泥臭い印刷屋のおっさんですから、とにかくこつこつ積み上げて忍耐強く、全く要領が悪いです。地域でやることはそんなものなんです。



●二ノ宮リムさちさん
板橋の皆さんがすごいのは、行政とも連携しているいろいろな活動を展開するなかで、自分たちの軸を見失わないところ。自分たちが必要だと思うことをする、その上でどのような連携が必要なのかということをしっかりと考えられています。

もう一つすばらしいのが、本当に多様な方が一緒になって学んでいるということです。子どもから高齢の方まで、さまざまな障害を持っている方も、対等な立場で活動されています。



全国の地域からのコメント より

●松田剛史さん
北海道でNPOとして、また大学の教職課程で、ESDや持続可能な地域づくりに関わるような支援や場の提供をしています。面白いと思ったことは、中学生たちに伝えることにより、大人たちが大切なものがみえてくる、という点。私は阪神淡路大震災を体験していますが、自分が経験したことを伝える作業により大切なものを見つけていった経緯と重なります。

●海藤節生さん
東北コンソーシアムの中に東北6県のサテライトが何か所かありますが、そのサテライトをつないで、新しいステークホルダーを発見・発掘していく仕事をしています。
国連のメッセージをどう伝えるかというお話を聞いて、思い出したことがあります。僕は2001年、仙台からリオに七夕を送ろうという動きがあったとき、学生が「地球は私たちのために、私たちは地球のために」という短冊を一枚書いてくれました。それに僕が曲をつけて歌にしてとどけました。

●北川陵太郎さん
ESDユネスコ世界会議の開催地である愛知県として、世界会議の翌年の2015年度からユース（大学生）を対象に「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」という、企業とパートナーシップを組んだ課題解決型「人づくり」プログラムに取り組んでいます。一番印象に残っている言葉は「コウショウ恐怖症」です。ESDやSDGsを地域にブレイクダウンした形で、あまり横文字ばかりを言わずに伝えていくことが大事だと思っています。

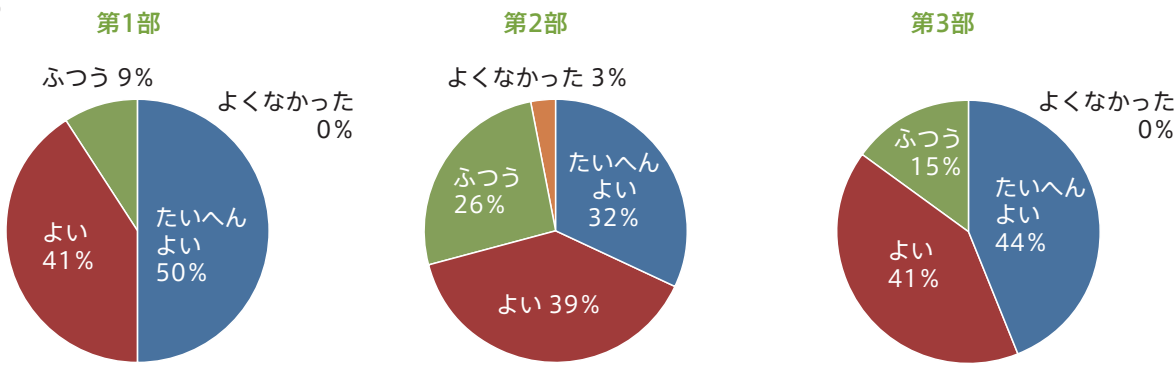
●林美帆さん
公害地域の再生をミッションとした財団法人で、ESDは公害地域再生と親和性が高いと考え、取り組みを始めました。当初は大阪・西淀川の公害地域の活動が中心でしたが、現在は公害資料館ネットワークを作り、いろんな立場の人たちが会話しながら学びながらの公害地域のESDを進めています。
演歌の話が心に響きました。ESDの概念だけでは伝わりにくい。反対に体感すると納得して動いてくださるということがESDの強みです。

●井上修さん
四国EPOの運営委員をしています。私も最近「香川ESD祭り」というものを開催し、大上段に構えるのではなく横から、あるいは下からESDを意識してもらうという機会を持ちました。すると保育所に通っている親御さんたちが参加してくれ、ESDを説明しなくてもなんとなくESDになったかなという感じがしています。
これからの時代は普段からの関係づくりだと思います。加藤さんはそれがしっかりできていて、その関係性をより深くより高く持っていくことがESDではないかと思いました。

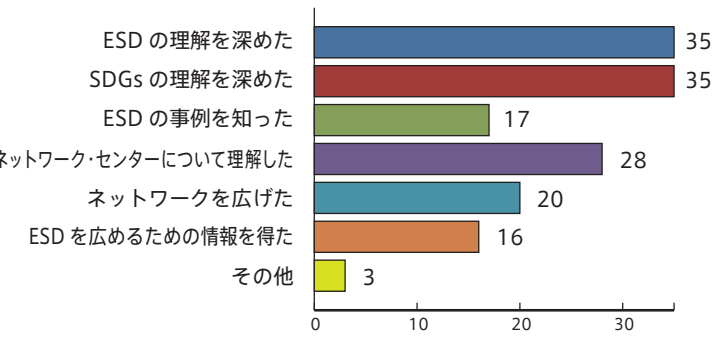
●石丸哲史さん
福岡教育大学で学校教育、教員養成に携わっています。教科やキャリア教育、コミュニティスクール学校協議会のなかでESDを展開できないものか、考えているところです。
学校教育と社会教育の線引きは必要ないと思いました。「活動あって学びなし」という言葉を学校の先生方はよくご存知かと思いますが、今日のお話を聞いてまさに「活動あって学びあり」と思いました。社会を作る主体の自覚に向かっていくと、立派な学びになるのですね。

●加藤勉さん
時代が大きく変わっても、大切なものは大切なものとしてしっかり私たちの意思として残していく。近代社会の中でつながりをつくる仕組みは、新しい文化になると思います。このつながりがなかったら人間の力を発揮しようがない。文化を作るということは、人間の力を発揮できる状況を作ることです。それはどんどん作っていけばいい。

■本日のフォーラムの
内容について



■本日のフォーラム参加の成果について（複数回答可）



全国フォーラム
第3部

持続可能な未来のための協働を俯瞰する：

ESD推進ネットワークとESD活動支援センター(全国・地方)の役割

新しい官民協働プラットフォームについての説明を受け、さまざまな立場でESDの広がり、深まりを牽引されている3人の方から、大切にすべきことをお話をいただいた後、参加者全員で、ネットワークと自身の活動のつながりについて話し合いました。



ファシリテーター：川嶋直さん 公益社団法人日本環境教育フォーラム(JEEF)理事長

- 紹介** ESD推進ネットワークとESD活動支援センター(全国・地方)
*社会人ユースESDレポーターの紹介
阿部治 ESD活動支援センター センター長
- コメント**「ESD推進ネットワークの可能性」
福井光彦さん 独立行政法人環境再生保全機構理事長
及川幸彦さん 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター主幹研究員
・日本ユネスコ国内委員会委員
高田研さん 都留文科大学教授
- 全員参加によるグループディスカッション**
- まとめ**

メッセージ「ESD推進ネットワークの可能性」より

●NGO/NPO支援の立場から……福井光彦さん

パリ協定やSDGsの課題に対応するため、より長期的な視点を持つことと、より幅広い視点を持つことが大切だと思います。NGO/NPOでも企業でも自治体でも学校でも、自分の色にずっと染まっていくとどんどん視点は狭くなっていきがちです。これを防ぐにはいろいろな主体と連携し、一緒に活動していくことが重要です。



ESD推進ネットワークでは、ユースの人材育成支援と、地域での学校、NGO/NPO、自治体、そして企業などの連携をより一層強化していくことが大切です。地球環境基金としても、地域での連携や人材の育成に対して助成金、あるいは研修、情報提供という形で積極的に支援していきたいと思っています。

●地域・全国・国際、さまざまなレベルでESDを実践し広めてきた立場から……及川幸彦さん

ESDに取り組んできた国連ESDの10年間の実績・成果を俯瞰したときに、ひとつ課題があるように思えます。

環境分野を含む開発系のESD実践者は、持続可能な社会を作るという熱い思いのもとに「SD」を重視し、若干「E」(教育・学びの要素)の方が薄いような気がします。それに対して、ユネスコ・文部科学省系のESD実践者は、「E」つまり、教育の質の改善をかけるなかで、持続可能な社会を作っていくという目的意識が薄まってしまうことがあります。

これからのセカンドステージで大事なはこのSDとEの融合です。セカンドステージのオールジャパンのESDを進めるためには、各分野や、各レベル(地域、広域、国、国際)をつなげる掛け橋が必要で、このブリッジ役を果たすのがESD活動支援センターだと期待しています。



■今後の全国フォーラムおよびESD活動支援センター(全国・地方)にどのようなことを期待しますか。

*回答をセンターにて「センターの機能」ごとに分類し、記載。 *末尾の括弧内は、参加者の参加の立場(問1の選択肢)を記載。

機能1 情報

- 定期的な情報発信を(教育機関)
- 巻き込み方、事例の紹介。たくさんの方の発信を期待します(企業)
- ネットワークの状況報告、連携周知・資料など

機能2 支援

- ゆるやかな連携の場、世話役(企業)
- あるものをすくい取るのではなく、しくみづくりの方向性を出して下さい。推進はやってないところへの支援をするべし。マイノリティへの視点がたりなさずと思う。(公益法人)
- 活動を継続していくための支援(NGO/NPO)
- ヒトのマッチングの推進(NGO/NPO)

機能3 ネットワーク・学び合い

- 今後もこのような大小の集まりを期待する。(NGO/NPO)(企業)
- 関係省庁とのつなぎ(公益法人)
- 幅広い参加が構成されるよう期待したい。(NGO/NPO)

機能4 人材育成

- 若者支援は本気出すこと(教育機関)
- コーディネート、ファシリテーションなど、スキルの向上を各セクターに促す。(NGO/NPO)
- 「資金確保+活動支援」⇒ESD活動に関わる人材育成ネットワーク(NGO/NPO)
- ESDの職について働けるように、全国各地に拠点を置いてほしい。ESDの仕事に安定した資金。(学生)

●地域のESDを支える人づくりに取り組んできた立場から……高田研さん

ESDでは深ければ深いほどなかなか表に出てこない地域の問題を表に出して、そこに関わるステークホルダーの皆さんと一緒に解決していくこととその覚悟が大切だと感じます。



一例として、公害の被害地域で作られた公害資料館がばらばらになっていたのをもう一回つなげ直そうと関係者が動き、実際にネットワークとして動き出しました。患者さんや被害者の方々と、公害の原因を作った企業や地域にある関連企業の方々の、互いの利益になるような方法で共通の場をつくることで、双方の関係がいわば「戦い」でしかなかったところから、一歩踏み出して、もう一度これからの持続可能な社会を作っていく……こうした過程のなかで中間支援組織の役割が大きいと実感しています。



全員参加によるグループディスカッション、まとめより

テーマは「ESD推進ネットワーク/ESD活動支援センターと自身の活動について」。

参加者は、5～6人のメンバーを次々に入れかえながら、他分野の参加者どうしが出会い、それぞれのESD実践経験をもとに、意見を交換していきました。そのプロセスを円形の紙に書き留めながら議論を進め、一方で、一人ひとりの気づきを個別のカードに書き起こしました。



これまではESDの進め方に焦点があり、根本的な意義(価値観の変革)の理解がひろがっていない。

どんなゴールが良いのか?何を残したいのか?何を改善したい?その議論から始めよう!

SDGs「誰も取り残さない」⇒誰も他人事ではいられない⇒ESDという言葉をもっとわかりやすくしてみんなが知る概念にする。

「多様性」の力。教育の力。ESDを専門家のものだけにしない。

ESDを楽しく広げるアイデアを全国みんなで共有したい。

セクター間のギャップや縦割りは「課題」だが、同時に相互理解のための「教材」になるかも。

つながって何を生み出すか、どんな仕組みをつくるか、どんなサポートができるか等を議論し、相互の強みを生かしあう場をつくる。

ESD: 知識⇒わが事⇒行動

自分たち若い世代がこれからの未来を作っていくという自覚を、ネットワークをたいせつにしながら広げていきたい。

足元のアクションが大切。同時にグローバルな視座も大切。つながりは目的ではない。

さまざまなバックグラウンドを持った人が同じ目標に向け頑張っている!今日の場が人をつなぐ場として、充分機能しました!

●成果

- 多様な参加者が互いに熱意をもって学び交流する場をつくることができ、個人として、また組織としてのESD推進ネットワーク形成のための「ESDの重要性と魅力をどう伝えるか」等の課題や「学び合いの機会増加」への期待について、意見をいただくことができた。
- ESD推進の意義を再確認するとともに、多くの関係者にとっての課題であるESDとSDGsの関係について、SDGs達成のための意識変容・行動変容をもたらす学びがESDであること等の理解を共有することができた。
- ESD推進のための仕組みであるESD推進ネットワークとESD活動支援センター(全国・地域)について参加者の理解を深めることができた。

●今後に向けて

- ESDが志向する広がりをふまえ、より広い分野、セクターからの参加を得たい。
- 異なる関心や問題意識をもつ参加者のニーズに応えるために、セッションの持ち方を工夫する必要がある。
- ESD推進ネットワーク、ESD活動支援センターの活動について理解を深めるには、より具体性のある説明が必要。次年度は地方センターの開設、地域ESD拠点の形成開始など、ESD推進ネットワークの体制が始動する時期の全国フォーラム開催となることを意識し、ESD活動支援センターが目指す、3つの「つなぐ」役割をより明確にする企画内容としたい。

国際フォーラム: ESDにおける「変容」「統合」「刷新」

ユネスコ／日本ESD賞海外受賞者の実践に学ぶ

International Forum on ESD: Transformation, Integration, Innovation
Learning from ESD Practice by the Laureates of UNESCO-Japan Prize on ESD

●開催の経緯： 4つのニーズへの対応として機能した国際フォーラム

世界的なESD賞である「ユネスコ／日本ESD賞」は、「変容」「統合」「刷新」を選考基準とする、持続可能な未来を視野に入れたユニークな賞です。これらの基準をもって選ばれた第1回(2015年)および第2回(2016年)の海外受賞5団体(ドイツ、インドネシア、グアテマラ・エルサルバドル、英国、カメルーン)が、ユネスコ本部が文部科学省と協力して実施する本賞の受賞者のフォローアッププログラムにより、来日することになりました。

本企画は、当初の事業計画にはないものでしたが、受賞団体がフォーラムに参加する岡山だけでなく、東京でも市民との交流の機会が持てないか、という相談対応から、①日本のESD実践者のユネスコ／日本ESD賞や海外のESD実践について知りたいというニーズ、②岡山以外でも日本の実践者と交流機会を持ちたいという海外受賞者のニーズ、そして、③ユネスコ／日本ESD賞について理解を広め、海外のESDの先進実践を知ってほしいという賞の主催者側のニーズ、④ESD活動支援センター自らが、国際的なESD情報の発信機会をとらえたい、という4つのニーズに基づいて、国際フォーラムを開催することとなりました。

情報共有の価値をあらためて認識するとともに、ESD活動支援センターとしての国際フォーラム開催ができたことに対して、ユネスコ、文部科学省はじめ関係者のご理解とご協力に感謝します。

ユネスコウェブサイト内ユネスコ／日本ESD賞ページ(英語)
<http://en.unesco.org/prize-ESD>

●海外受賞各団体の活動の概要

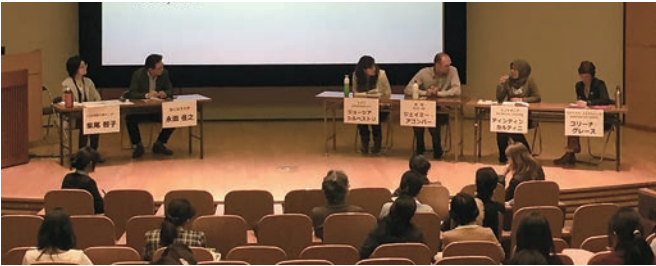
ドイツに本部をおくユース団体ROOTABILITYによる「グリーン・オフィス・モデル」は、大学とその周辺地域のサステナビリティ推進に向けて、学内に、「グリーン・オフィス」という拠点を設け、活動のために賃金をえてパートタイムで活動する学生と大学職員、大学教員が、方向づけ、つながりづくり、プロジェクト育成、ロビー活動、参加の促進、学び、資金調達を行うものです。2010年設立以来、数年間で6か国の26の大学に、「グリーン・オフィス」が広がっています。



1922年に設立され、現在、**全英600の学生組合の連合であるNUS (National Union of Students) は、10年前から「グリーンインパクト・プログラム」**を個別の学生組合に提供しています。持続可能な開発について学びたいという学生のニーズに応えるとともに、大学の経費削減にも貢献します。大学の授業のなかにESDの要素をいれる努力をし、不足なら自主講座を開催し、学業、キャンパス、学生の暮らしにおけるサステナビリティに貢献するさまざまな活動を支援しつつ、金・銀・銅メダルで表彰します。その過程で、学生リーダーを育てます。今年度は、270の組織(1,889の学部等のチーム)が参加し、85,851件のグリーンインパクト活動が実施され、そのうち61%がグリーンインパクト・プログラムの直接の成果でした。その過程で1,081人の学生がリーダーとなるための訓練を受けました。

幼児教育・ノンフォーマル教育・インフォーマル教育開発バンドンセンター(呼称：ジャヤギリ・センター)は、1961年に設立され、インドネシア国民教育・文化省管轄下の教育の機会に恵まれない子どもや成人のノンフォーマル教育の専門機関です。受賞した「環境に配慮した企業家精神向上プログラム」は、地域住民のニーズと特性を取り入れたESDのモデルを開発し、他の地域に広げていこうとするものです。農村に住む18歳～45歳までの青年・成人に対して、地域の文化と伝統、環境に配慮しつつ地域経済を向上させるために、伝統的人形劇の人形、竹細工、木彫等の手工芸品、淡水魚養殖、有機野菜栽培、堆肥づくり等の職業的技術のプログラムを提供します。学習者は、チームワークのなかで原料調達から販売までを学習し、チーム同士の健全な競争によって、起業家精神を育てていきます。2010年に事業を開始してから15,000人以上がこの事業を通じて学びました。

「ESDユース・アンバサダー・プログラム」は、中米のグアテマラとエルサルバドルで活動するNGO、ASOCIACION SERESの事業です。環境劣化と貧困が同時に進行し、地域社会が崩壊に瀕している状況を改善するために、教育機会に恵まれず将来に夢を持つことが困難な若者たちに、当事者としてのリーダーシップを育成しユース・アンバサダーとして他の若者たちにより影響を広げようとするものです。暴力、紛争、貧困から脱却し、平和、繁栄、持続可能性に向けて、自分の地域を、ひいては国を、変えていく情熱と責任感にあふれる若者がこれまでに1,900人、このプログラムから育ちました。



●質疑応答のセッション

まず、活動資金源について質問がありました。それぞれの団体は、参加料、研修料金、コミュニティからの貢献など、補助金・助成金だけに頼ることのない仕組みを持っていました。

「お話を聞くとすべてうまくいっているように見えるが、事業に失敗はないのか。」という質問に対して、失敗は学びの機会であり、学びそのものであること、また、重要なのは、楽観主義を貫くこと、楽しく継続すること、という解答はどの参加者にも共通していました。

フォーラム終了後も、海外受賞者を囲む輪がなかなかほどけず、日本の大学の授業にSNSを通じて海外受賞者が参加するプランも持ち上がったようでした。

●参加者アンケートから ()内は、参加者属性

- ・「インスパイアリングなお話を伺え、未来へのヒントをいただいた。」(教育機関)
- ・「実践のプロセスを直接関わっている人から活動のようすを、そのエネルギーと共に聞くことができた。Challengeの共通点を考えることができた。」(教育機関)
- ・「関心のない他者を、どう活動に巻き込んで行くのか、失敗からさえも、どう学ぶのか、学生のリーダーシップをどう構築するのか。私も難民支援の学生団体で活動しているので参考になった。」
- ・「ESDを広めていくことには、多くの壁があるように思えるが、小さなところから転換していくことが重要であると感じた。」

●成果

- ・年間計画になかった国際フォーラムを、相談対応で得た情報から急ぎょ企画し、実現の方途を探り多くの協力者によって短時間で実現した。結果、大学生を含む日本のESD実践者との交流の機会をつくることができた。

●今後に向けて

- ・企画から開催までの日数があまりなかったことから、充分な周知を行うことができなかった。
- ・日本のESD実践者にとって海外のESD実践者から直接話を聞いて交流する機会はたいへん貴重であることが分かったので、情報収集を心がけ、関係者との協働関係のなかで実施機会を探る。

開催概要

- 日時 2017年1月24日(火) 18時30分～20時30分
- 会場 聖心女子大学宮代ホール
- 主催 ESD活動支援センター
- 協力 ESD日本ユース、NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)、岡山ESD推進協議会、岡山市、公益財団法人五井平和財団、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)、聖心女子大学永田研究室、地球環境パートナーシッププラザ(GEOC) (50音順)
- 参加者 62名(主催者関係含む)

■プログラム概要

司会：柴尾智子

開会のご挨拶

高橋佑輔さん(文部科学省国際統括官付ユネスコ第二係長)
田代久美さん(環境省環境教育推進室 室長補佐)

開催趣旨説明

柴尾智子(ESD活動支援センター次長)

お話「ユネスコ／日本ESD賞のユニークさ」

永田佳之さん(ユネスコ／日本ESD賞 審査員、聖心女子大学教授)

2015年、2016年ユネスコ／日本ESD賞受賞者のお話と質疑応答

●高等教育へのフォーカス

ドイツ「グリーン・オフィス・モデル」
2015年受賞団体 ROOTABILITY(Germany) ジョージア・シルベストリさん

英国「グリーンインパクト・プログラム」
2016年受賞団体 National Union of Students UK(NUS-UK) ジェイミー・アゴンバーさん

●コミュニティへのフォーカス

インドネシア「環境に配慮した企業家精神向上プログラム」
2015年受賞団体 JAYAGIRI CENTRE(Indonesia) ティン・ティン・カルティニさん

グアテマラ・エルサルバドル「ESDユース・アンバサダー・プログラム」
2015年受賞団体 ASOCIACION SERES(Guatemala and El Salvador) コリーナ・グレースさん

コメント

日本 「岡山ESDプロジェクト」
2016年受賞団体 岡山ESD推進協議会 小西美紀さん(岡山市市民協働局ESD推進課)

まとめのコメント

ミリアム・テレイクさん(ユネスコ)

閉会挨拶 阿部 治(ESD活動支援センター センター長)

(注) 2016年受賞団体カメルーンのCenter for Community Regeneration and Development代表の来日は、現地の政情不安により中止となりました。



屋外イベントでESDの普及

ESDの推進において、ESDの認知度を高めることは大きな課題となっています。非常に大きな概念である「持続可能な開発」と、学校での教育のみならず、学習や活動を通じた学びをも含む広い意味での「教育」が組み合わさったESDの説明には、対象や関心度合いにあわせてさまざまな工夫が必要です。

ESD活動支援センターは、環境省が主催するふたつの屋外イベントにESDブースを出展し、ユースやESD実践者の協力を得て、休日の屋外イベント来場者に「ESDを伝える」ことにチャレンジしました。

チャレンジ1 エコライフ・フェア2016でESD



開催概要

日時 2016年6月4日(土)～6月5日(日)
場所 代々木公園(ケヤキ並木・イベント広場)
全体テーマ 地球がすき。未来がたのしみ。

●企画の意図

ESDが目指す「持続可能な開発」のイメージを、休日の屋外イベントにふらりと立ち寄った人たちに伝えるために、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）を柱にした出展内容としました。また、SDGsを知識として理解していただくだけでなく、コミュニケーションプログラムや、トークなどを交え、アクション（行動）につながる学び、またブーススタッフ間や来場者との学びあいを体験してもらえるような工夫をしました。

協力：板橋区立成増小学校地域支援本部／株式会社プロジェクトデザイン／公益社団法人ガールスカウト日本連盟／ESD日本ユース・コンファレンス事務局（公益財団法人五井平和財団）／横浜コミュニティデザイン・ラボ／横浜市立永田台小学校（五十音順）

プログラム SDGsアクション



ユーススタッフが来場者に「SDGsと一緒に考えよう」と声掛け。集客には環境省のESDキャラクター「はぐくん」との関係プレーが効果的でした。



関心を持った人にカラフルなSDGsロゴが入った17枚のカードを見せながら説明。参加者は関心を持ったテーマのカードに「自分ができること」を記入します。



関心をもったテーマにシールを貼って終了。カード、日々の暮らしの中で思い出してもらえよう持ち帰っていただきます。



小学校や地域での取り組みを掲示して、参加者がSDGs達成に向けたアクションを考えるヒントとしていただきました。

プログラム SDGsゲーム

ゲーム「SDGs」は、「持続可能な開発とは何か」を知るためのゲーム。他者と協力することの重要性や、自分の目標を達成するための主体性、他の参加者をまとめて共にゴールを目指すリーダーシップ、人間を含む環境への配慮などが学べます。

プレイ時間は40分から1時間、ゲーム終了後のふりかえりが大切です。

トークプログラム 「ESDで地域や社会を元気にする」

6月4日(土)【ユース編】

ゲスト

筒井麻衣子さん(ガールスカウト千葉県第83団リーダー)

チアム カイ デニスさん(大学院生、ESD日本ユース・コンファレンス参加者)

筒井さんからは世界青年の船やガールスカウトのリーダー活動におけるESD、デニスさんからはESD日本ユース・コンファレンスをきっかけとした若手のネットワークの動きをうかがいました。



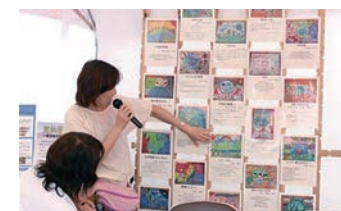
6月5日(日)【地域・学校編】

ゲスト

広木敬子さん(横浜市立永田台小学校教諭)

杉浦裕樹さん(NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ代表理事)

同じ横浜市内の取り組みですが、お二人は初対面。学校でも地域でも活動を持続的に行うためには、組織の内外から、お互いの活動を支援し合うような関係を広げていくことの重要性が語られました。



チャレンジ2 グリーンチャレンジデー 2016でESD

開催概要

日時 2016年10月1日(土)～2日(日)
場所 新宿御苑
全体テーマ つなげよう、支えよう森里川海

●企画の意図

グリーンチャレンジデーでは、出展者それぞれが生物多様性をテーマに、体験型のプログラムの提供や食事・グッズの販売などを行います。そこで、ESDブースは会場内のどこでどんな体験ができるか、どんな発見があったかをESDの切り口から発信する「情報ステーション」の役割を担う企画としました。

その発信は、ESDブースで活動発表を行った子どもメンバー、ユーススタッフをはじめ、その日の来場者の皆さんも作成する、参加型の展示とすることで、誰もがESDの担い手になることを体験的に伝えることを目指しました。

出展者説明会では環境省から出展者の皆さんに、ESDの説明、取材への協力、体験型の学びの提供を依頼していただくことで、出展者へのESD普及にもつなげました。

●成果

〈参加者数〉	SDGsアクション	372名
	トークプログラム	27名
	SDGsゲーム	32名

- ・エコライフ・フェアの来場者は親子連れが多く、SDGsは難しいという懸念もあったが、ユーススタッフの熱心な声かけや、具体的な取り組みのアイデアの紹介によって、小さな子どもも楽しみながらアクションを考えるよいプログラムとなった。
- ・参加者には環境への関心の高い若者や中高年の方々もあり、ユーススタッフが参加者から環境問題について教えてもらうなど、プログラムへのボランティア参加を通じてユース自身が学び、成長する機会となったことがうかがえた。

●今後に向けて

- ・参加者がどんなアクションを考え、持ち帰ったのか、こちらで把握する仕掛けができなかった。次回企画する際は、写真に収めるなどの工夫が考えられる。

協力：伊豆市立天城中学校卒業生／公益社団法人ガールスカウト日本連盟／こどもエコクラブ全国事務局（公益財団法人日本環境協会）およびこどもエコクラブの皆さん（イオン市川チアーズクラブ／竹の子エコクラブ／野島自然観察探見隊／MIYASHIROエコ☆スターズ）／多摩市立青陵中学校自然体験部／ユース有志（五十音順）

プログラム 小中学生によるESD活動の紹介

こどもエコクラブや中学校の部活動、中学校の授業で行っているESD活動を手作りポスターで紹介。子どもたち、ユースたちから直接説明をしていただきました。



プログラム 会場内のESD体験レポート



ユーススタッフはグリーンチャレンジデー会場内の体験活動を下調べし、ESD的な体験ができそうなブースを取材。体験レポートのお手本作成に取り組みます。



活動紹介を終えた子どもたちも、会場内で興味のある活動を体験してレポートを作成。ユーススタッフは陰に日向に子どもたちをサポートしました。

プログラム ESDのたねさがし



段ボールの壁に手描きで会場マップを作成。ユーススタッフがアシスタント・ディレクターと共に出展ブースを下見し、見本となるメッセージカードを作成し、シールを使ってマップ上に貼りだします。

体験したことでどんな発見があったか、ほかの人にも体験してもらいたいことはあったか、そんな視点で自分の体験をふりかえることになります。

このカードを呼び水に、ユーススタッフが来場者にマップを説明、来場者が見たり体験したりしたことをメッセージカードに書くよう勧め、カードを増やしていきました。



●成果

〈参加者数〉

会場内のESD体験レポート 24枚
ESDのたねさがし 107枚
ESDブース出展・運営に参画した子ども 25名のべ25名
ユース 14名のべ14名

- ESD体験レポートやESDのたねさがしの掲示を通して、一般参加者に他のブースでどんな活動ができるのかを紹介する機能を担うことができた。
- 「カードを書く」というアクションに来場者を導くことは簡単なことではないが、ユーススタッフたちが果敢に声がけをしたこと、1日目のカードがよいサンプルとなり、呼び水の役割を果たせた。
- ほとんどの出展ブースにユーススタッフや子どもたちが取材に行ったことで、彼らを通して、ESDとESDブースについて出展者に伝えてもらうことができた。

●今後に向けて

- 他の出展者の出展内容を事前にどう把握できるか、また、より前の段階で、ESD的な視点を持った出展内容となるよう働きかけられるかが課題となる。
- この段階に力や資源をかけられれば、屋外イベントのESD度を高めていくことができるだろう。

オープニング式典を開催



5月26日（木）、ESD活動支援センターのオープニング式典を、地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）にて開催しました。式典には、政府、国会議員、学校、高等教育機関、産業界、NPO、自治体等、多様な立場の方々約70名が参加しました。センター、環境省、文部科学省のご挨拶の後、鈴木俊一ESD推進議員連盟会長はじめ来賓の皆さまから期待の言葉をいただき、発足を祝いました。

資料編

後援・講師派遣等

ESD活動支援センターは、ESD推進ネットワーク形成の目的に沿った、ESDの推進、普及または啓発に積極的に寄与する行事について後援等を行っています。また、ネットワークの形成に資するセミナーや集会等に講師の紹介および派遣を行いました。

東海北陸ユネスコスクール交流会2016

開催日	2016年8月4日(木)
会場	金沢都ホテル7階鳳凰の間
主催者	日本ユネスコ国内委員会、金沢大学国際基幹教育院
《後援》	

地域を舞台にした「ESD:いのちをつなげる教育」フォーラム2016夏

開催日	2016年8月17日(水)
会場	OMM グラン102会議室
主催者	環境省近畿地方環境事務所、環境省近畿環境パートナーシップオフィス(さんき環境館)
《後援》《講師派遣》	

ユネスコスクール・ESD研修会in 大牟田

開催日	2016年8月24日(水)
会場	ホテルニューガイア オームタガーデン
主催者	大牟田市教育委員会
《後援》	

東西文化の融合

開催日	2016年11月3日(木・祝)
会場	大東文化会館
主催者	大東文化大学大学院外国語学研究所日本言語文化学専攻
《後援》	

清里ミーティング2016（通算30回目）

開催日	2016年11月5日(土)～7日(月)
会場	公益財団法人キープ協会 清泉寮、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
主催者	公益社団法人日本環境教育フォーラム(JEEF)
《後援》《職員派遣》	

わかやまユネスコ・ कांग्रेस

開催日	2016年11月12日(土)
会場	和歌山県立橋本体育館
主催者	和歌山県ユネスコ協議会
《講師派遣》	

第48回全国小中学校環境教育研究大会(福島大会)

開催日	2016年11月18日(金)
会場	福島県須賀川市立白方小学校
主催者	全国小中学校環境教育研究会
《後援》	

平成28年度環境カウンセラー研修(関東地区)

開催日	平成28年11月30日(水)
会場	国立オリンピック記念青少年総合センター
主催者	NPO法人環境カウンセラー全国連合会
《講師派遣》	

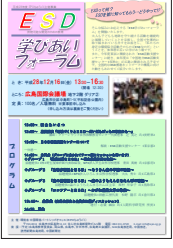
第8回ユネスコスクール全国大会ー持続可能な開発のための教育(ESD)研究大会ー

開催日	2016年12月3日(土)
会場	金沢大学角間キャンパス
主催者	文部科学省、日本ユネスコ国内委員会
《後援》《職員派遣》《ブース展示》	

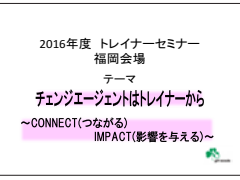
ガールスカウト トレーナーセミナー

開催日	2016年12月3日(土)
会場	国立オリンピック記念青少年総合センター
主催者	ガールスカウト日本連盟
《講師派遣》	

資料編

ESD学びあいフォーラム2016「みんなの、地域の、ESDに学ぶ」		
	開催日 2016年12月7日(水) 会場 ウィンクあいち(愛知県産業労働センター)1201 主催者 環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)	《講師派遣》
四国地方センター設置に関する趣旨説明会		
	開催日 2016年12月8日(木) 会場 あかがねミュージアム 主催者 環境省四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)	《講師派遣》
社会教育団体振興協議会幹事会		
	開催日 2016年12月15日(木) 会場 モラロジー研究所 主催者 社会教育団体振興協議会	《講師派遣》
第4回公害資料館連携フォーラムin水俣		
	開催日 2016年12月16日(金)～18日(日) 会場 水俣市立水俣病資料館、国立水俣病総合研究センター水俣病情報センター、熊本県環境センター 主催者 第4回公害資料館連携フォーラムin水俣実行委員会	《後援》《職員派遣》
ESD学びあいフォーラム(後援)		
	開催日 2016年12月16日(金) 会場 広島国際会議場 地下2階 ダリア② 主催者 環境省中国環境パートナーシップオフィス(EPO中国)	《後援》《講師派遣》

平成28年度奈良ESDコンソーシアム第2回実践交流会		
	開催日 2016年12月23日(金・祝) 会場 奈良教育大学大会議室 主催者 奈良教育大学	《後援》
世界遺産学習・ESD研修会		
	開催日 2016年12月27日(火) 会場 帝京大学福岡キャンパス 主催者 大牟田市教育委員会ESDコンソーシアム	《後援》《講師派遣》
第28回全国公民館セミナー		
	開催日 2017年1月16日(月)～18日(水) 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟309号室 主催者 公益社団法人全国公民館連合会、全国公民館振興市町村長連盟	《後援》
ユネスコ/日本ESD賞受賞記念岡山ESDフォーラム2017～新たなステージへ 共につくる持続可能な世界～		
	開催日 2017年1月22日(日) 会場 岡山大学創立50周年記念館 主催者 岡山市、岡山市教育委員会、岡山ESD推進協議会、文部科学省	《後援》
新宿の環境学習応援団 第16回『まちの先生見本市!』		
	開催日 2017年1月28日(土) 会場 新宿区立落合第三小学校 主催者 NPO法人新宿環境活動ネット、新宿区	《後援》《職員派遣》

ESD/ユネスコスクール東北コンソーシアム総会・成果発表会		
	開催日 2017年2月3日(金) 会場 TKPガーデンシティ PREMIUM 仙台東口ホール101A 主催者 ESD/ユネスコスクール東北コンソーシアム、宮城教育大学	《後援》《講師派遣》
東京コンファレンス		
	開催日 2017年2月5日(日) 会場 東京大学本郷キャンパス 主催者 学びを通じた地方創生コンファレンス東京実行委員会	《講師派遣》
ガールスカウト トレーナーセミナー		
	開催日 2017年2月5日(日) 会場 海の中道青少年海の家 主催者 ガールスカウト日本連盟	《講師派遣》
ESD・国際化 ふじのくにコンソーシアム 初年度(平成28年度)成果報告会		
	開催日 2017年2月7日(火) 会場 ホテルアソシア静岡・葵 主催者 静岡大学、ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム	《後援》
信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会		
	開催日 2017年2月18日(土) 会場 信州大学教育学部 主催者 信州ESDコンソーシアム	《後援》《講師派遣》

地域の環境教育・学習拠点ESD推進フォーラム「テーマ：地域の環境教育・学習拠点のESDの推進拠点化に向けて」		
	開催日 2017年3月1日(水) 会場 岡山国際交流センターレセプションホール 主催者 環境省中国環境パートナーシッププラザ(EPOちゅうごく)	《後援》《講師派遣》
全国ボランティアコーディネーター研究集会2017 福岡・大野城		
	開催日 2017年3月4日(土)～5日(日) 会場 大野城まどかぴあ、大野城市総合福祉センター、大野城市役所新館 主催者 特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会	《後援》
第4回シティズンシップ教育ミーティング		
	開催日 2017年3月18日(土)～19日(日) 会場 立教大学 池袋キャンパス 本館、12号館 主催者 日本シティズンシップ教育フォーラム(J-CEF)	《後援》《職員派遣》
世界一大きな授業2017		
	開催日 2017年4月15日(土)～5月31日(水) 主催者 教育協力NGOネットワーク(JNNE)	《後援》
英語パフォーマンス甲子園ブレ大会		
	開催日 2017年8月19日(土) 会場 奈良市ならまちセンター市民ホール 主催者 英語パフォーマンス甲子園実行委員会	《後援》

メディア掲載

ESD活動支援センターおよびESD推進ネットワーク関連記事・情報が掲載されたマスメディア、関連団体の情報誌等の一覧です。

マスメディア	教育新聞(電子版・ニュース) (2016年4月22日) 見出し「ユネスコ／日本ESD賞推薦3件 支援センター設置も」
	琉球新報 (2017年1月3日) 見出し 論壇「沖縄21世紀ビジョン 若者が「懸け橋」の役割 與儀滝太」
	毎日新聞 (2017年1月16日) 見出し「ESDで生徒の自主性育む」
	朝日新聞 広告特集 (2017年2月21日) 見出し「朝日新聞環境教育プロジェクト 地球教室」
関連メディア	はじめよう、未来へのアクション！地球教室 応用・研究編(2016年6月) 発行 朝日新聞環境教育プロジェクト「地球教室」教材開発委員会
ESD関連団体の機関紙等	中部大学ESD通信 Vol.21 July2016 タイトル「ESD活動支援センター「全国センター」が東京に開設！」 発行 中部大学国際ESDセンター
	月刊経済広報 446October 2016年10月号 タイトル「持続可能な発展のための人づくり ～企業にとっての意味とは～」 (寄稿：ESD活動支援企画運営委員会 委員長：関正雄) 発行 一般財団法人経済広報センター
	ACCU news No.400 2016年10月号 タイトル「ESD活動支援センター 始動！」 (寄稿：ESD活動支援センター センター長：阿部治) 発行 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)
	環境教育ニュースレター 114号 2016年10月 タイトル「国連ESD の10 年の成果：ESD 活動支援センターが誕生しました」 (寄稿：ESD活動支援センター センター長：阿部治) 発行 日本環境教育学会
	KNCF NEWS 経団連自然保護協議会だより No.74 2017Winter タイトル「多様な主体との連携でESDを推進するESD活動支援センターが発足しました」 (寄稿：ESD活動支援センター センター長：阿部治) 発行 公益信託経団連自然保護基金、経団連自然保護協議会
	資料館だより No.59 2017年2月号 タイトル「ESD推進ネットワーク全国フォーラム2016で西淀川の事例を報告」 発行 あおぞら財団附属西淀川・公害と環境資料館(エコミューズ)



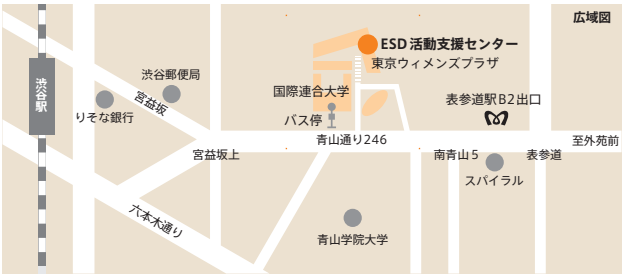
【ロゴの紹介】

ESD活動支援センターのロゴマークでは、青色に「学び」、黄色に「活動」、森や自然を想起する緑色には「持続可能な社会」を象徴させました。
この三色を配し、「人びとの学びと活動によって持続可能な社会を生み出し、育てる」というESDの考え方を表しています。また、ESDの文字を使って卵から雛が生まれる様子を表現。青色と黄色を混ぜると緑色が生じるという「色の原理」も織り込んでいます。

【ESD活動支援センターの体制】

センター長	阿部 治
副センター長	鈴木 克徳
次長	柴尾 智子
次長	村上 千里
スタッフ	林 歩未
スタッフ	山崎 知子
スタッフ	渡辺 五月 (50音順)

ESD活動支援センターは、特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J) が公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) と共同で運営しています。



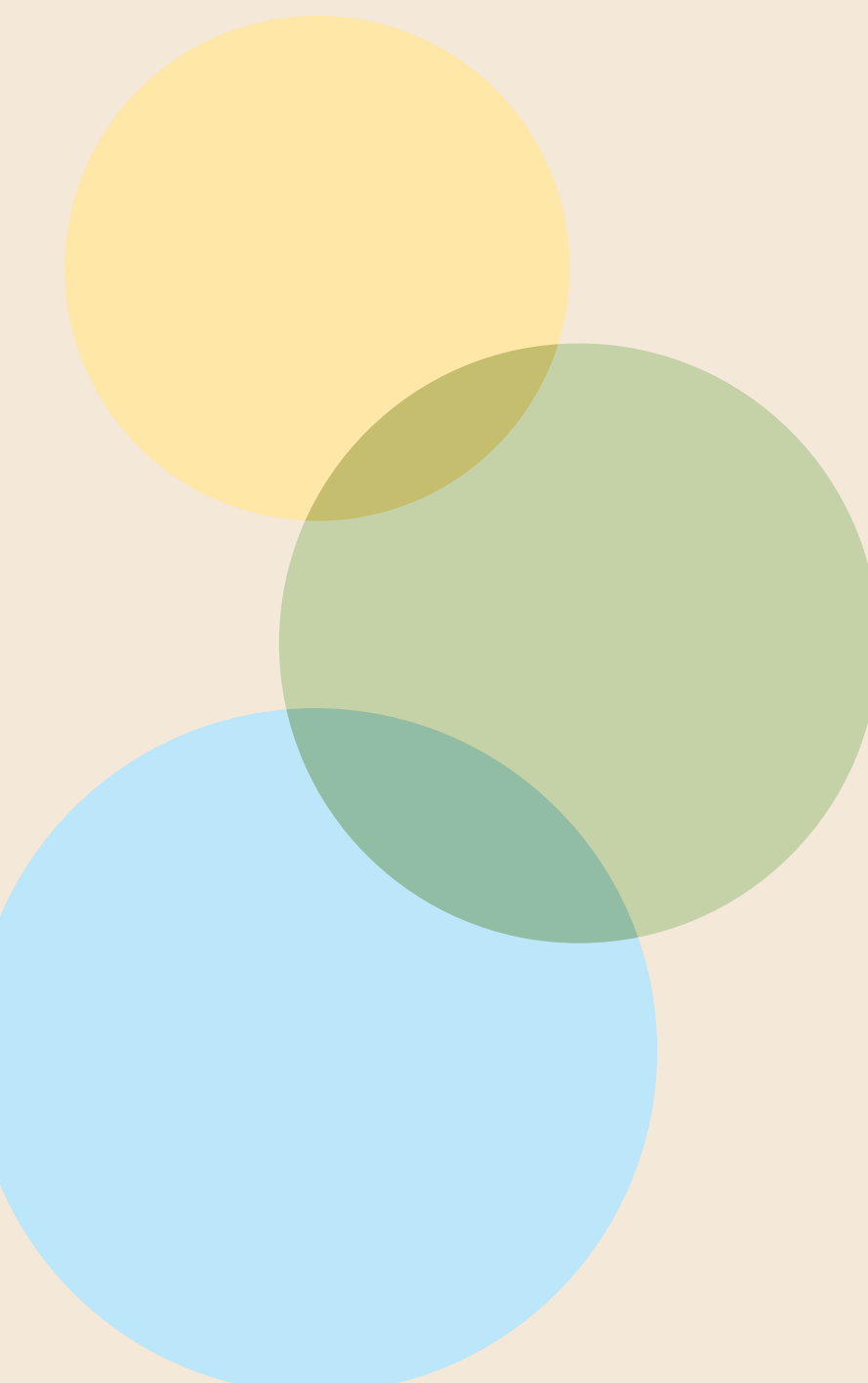
【最寄駅】

- ・東京メトロ 銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道駅」
B2出口から徒歩約10分
- ・JR・東急東横線・京王井の頭線・東京メトロ副都心線「渋谷駅」
東口(宮益坂口)から徒歩約12分
- ・都営バス(渋88系統)「青山学院前」停留所から徒歩約2分

★青山通りから国連大学とオーバルビルの間の道を入り、東京ウィメンズプラザの前のエスカレーターでB1Fまでお越しください。

ESD活動支援センター

〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5丁目53-67コスモス青山 B1階
TEL : 03-6427-9112 FAX : 03-6427-9113
E-mail : contact@esdcenter.jp



平成28年度環境省請負業務
平成28年度ESD活動支援センター運営等業務報告書

**持続可能な地域づくりと人づくりを推進する
ESD活動支援センター 活動レポート2016**

発行日 2017年3月
発行 環境省総合環境政策局環境経済課環境教育推進室
制作 ESD活動支援センター

